

昭  
和  
十  
九  
年  
二  
月  
以  
降  
研  
究

1668

Proj. No.	113
S. A. No.	15022-I
Sack No.	
Item No.	6/AG

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1668

22 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Studies of Total War Institute in 1944

Date: 1944 Original  Copy  Language: Japanese

Has it been translated? Yes  No

Has it been photostated? Yes  No

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Preparation of Jap opinion for war.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Studies, made by Total War Institute, on:  
61a--Opinions about emergency measures at time of decisive battle.  
61b--Memorandum concerning inflation.  
61c--Increasing transportation on sea.  
61d--Items for studies of long war.  
61e--Reference opinions about policy of new cabinet.  
61f--Tentative plan of new calender for Greater East Asia.  
61g--Studies about system of enterprises at time of decisive battle.

Analyst: 2nd Lt. Miwa

Doc. No. 1668

MICROFILMING

Document 1668 Source: Cabinet Secretariat

has been microfilmed on 21 Oct 1948 for  
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON  
Files Unit  
Document Division

E 2# 1668

目

一	學徒動員體制ノ徹底	四
二	國民勤勞體制ノ刷新	七
三	防空體制ノ強化	一九
四	簡素生活徹底ノ覺悟ト食糧配給ノ改善整備	二三
五	空地利用ノ徹底	二四
六	製造禁止品目ノ擴大ト規格統一ノ徹底	二五
七	高級享樂ノ停止	二六
八	重點輸送ノ強化	二七
九	海運力ノ刷新強化	(省略)
一〇	平時的又ハ長期計畫の事務及事業ノ停止	(省略)
一一	中央官廳事務ノ地方委任	(省略)
一二	裁判檢察ノ迅速化	二八
一三	保有物資ノ積極的活用	目一

一四	信賞必罰ノ徹底ト査察ノ強化	二九
一五	國民運動ノ展開	三三
一六	國民指導啓發	三七
一七	官廳休日ヲ縮減シ常時執務ノ態勢ヲ確立ス	(省略)

(目次終り)

所員

機密

甘部中 給

昭和十九年二月二十八日

決戰非常措置要綱ニ關スル意見

總力戰研究所

7668

61 (20)

一、學徒動員體制ノ徹底

〔一〕學徒徹底動員ノ實施要領

學徒ノ動員ハ敎職員ノ指導ノ下ニ學校單位ニテ行フヲ原則トシ、之ヲ防衛、生産、運輸、通信等必要部面ニ配當スレバ學校移轉ヲ考慮ス

(イ) 理科系ノ大學、高專及實業學校學徒（女子ヲ含ム）ハ其ノ専門ニ應ジ、之ヲ軍關係工場、病院、農産等必要方面ニ配當ス

(ロ) 理科系大學、高專學徒（女子ヲ含ム）中ヨリ所要數ヲ専門ニ應ジ、必要研究機關ニ配屬シ、研究助手トシテ勤務セシム

(ハ) 文科系ノ大學、高專及中等學校生徒中ヨリ所要數ヲ防衛方面ニ配當ス

(ニ) 文科系大學、高專學徒（女子ヲ含ム）中ヨリ適格者ヲ選ビ、之ヲ工場事務ノ補助員トシテ必要方面ニ配當ス

(ホ) 女子學徒中ヨリ一定數ヲ選定シ、之ニ看護婦、保母敎育ヲ授ケ、之

ヲ必要方面ニ配對ス

(一) 學校工場化ノ重點ヲ男子工業學校、女子高專及中等學校ニ偏ク  
教員及學校設備ノ活用

(二) 教員ハ豫備教育ヲ施シ、動員學徒ノ指導ニ任ビシム  
理科系高等、中等教員中ヨリ適任者ヲ必要研究機關ニ動員配對シ、

研究ニ專念セシム

(三) 大學所屬ノ研究室ハ之ヲ徹底的ニ整備強化シ研究機關トシテ又ハ前  
項標準ニテ活用ス

(四) 高專、中等學校所有ノ理科用器械類ハ之ガ必要方面ニ於ケル徹底的  
活用ヲ計ル

(五) 學校々合ハ必要ニ應ジ、之ヲ工場又ハ軍用非常倉庫用、非常病  
院用、避難住宅用其他緊要ノ用途ニ之ヲ轉用シ、之ガ防衛ニハ學徒  
ヲ充當ス

(附) 教員、學徒ノ研究部面ヘノ動員ニ並行シ、一是ニ科學者、技術



行ニ誘引ノ旨點配骨ヲ斷行ス

同學徒徹底動員ノ組織

(イ) 各省關係官吏ヨリナル學徒動員本部ヲ文部省内ニ、支部ヲ各地方行政評議會ニ設けシ、防衛、生産、運輸、通信等必要部而ニ對スル動員計畫ノ立案並ニ指導ニ任ビシム

(ロ) 關係官吏又ハ該職員中ノ適任者ヲ軍需監理官又ハ勞務管理官ニ兼任セシムルト共ニ、關係工場等ニ學徒勤勞係員ハ文部省囑託又ハ地方囑託ヲ設けシ、以テ工場其ノ他ニ於ケル學徒勤勞管理ニ遺憾ナカラシム

## 二、國民勤 俗制刷新

### (一) 聯業轉換

#### (1) 企業整備ノ徹底完遂

企業整備ニ當リテハ不良又ハ小工場ヲ除キ可及的其ノ有機的組織ヲ破壊セザル考慮ノ下ニ轉換ヲ計ル

中小工業又ハ不良工業ノ整理ニツキテハ其ノ施設又ハ從事者ヲ適宜分離既設軍需生産部門ニ轉換セシム

#### (2) 都市個人營業ノ整備完遂

都市個人營業ノ整備ニツキテハ配給品目ノ數量及地域的需要關係ヲ勘察シ業種ノ合併採取ヲ併用シ之ガ整備ヲ完遂シ現在ノ如キ半失業狀態ヲ解消セシメ之ガ整理ヲ促進スル爲轉業者ニ對シ國家的補償ヲ強化ス

### (二) 適正配置

(1) 勞務ノ配置ニ當リテハ環境業種ヲ勘案シ可及的女子勞務者ヲ充當シ

基礎産業ノ用キ重労働ニ主トシテ男子ヲ充當ス

(ロ) 技術者ノ配置ニ當リテハ比較的不急産業部門又ハ研究部門ニ於ケル優秀技術者ヲ重要産業部門ヘ配替換チ行フ

(ハ) 國民職業指導所ノ陣容ヲ刷新強化シ (民間有力者ノ起用) 且市町村下部機構

(町會)ニ職業指導部ヲ設ケ之ガ連絡ニ當ラシム

(ニ) 勞務查察員制度ヲ設ケ之ヲシテ有權的ニ既配置勞務ノ適正ヲ行ハシム

(三) 勤勞受入体制ノ刷新強化

(イ) 都市疎開ヲ急速實施並ニ家屋公共借上チ斷行シ居住ノ再配置チ行ヒ應徵勞務者ノ合宿所ヲ急速設置ス

(ロ) 女子勞務ノ多數進出ニ伴ヒ合宿所ノ急速擴充ト共ニ其ノ健康、風紀、教育ノ見地ヨリ女子向施設ノ急速實地ヲ計ルト共ニ其ノ勞務管理ニ必要ナル指導者ヲ配置スルコト

(ハ) 既婚婦人ノ勞務ニ關シテ出勤、勤務時間、託兒所、妊婦保護等ノ施設

ヲ  
願  
ス

(二) 家庭ニ於ケル主婦其他ノ勤勞寄與ニ資スル爲配給制度ノ確立ヲ急速  
完遂ス

(三) 女子挺身隊ノ強制加入ニ當リテハ廿五才以下未婚女子ノ動員ヲ先以  
テ實施スルコト

### 三、防空設備ノ強化

(本方策ハ主トシテ東京都ヲ標準トシテ研究セルモノニシテ他要地ニ就テハ特記セルモノノ外本方策ヲ準用スルモノトス尙以下施策記載ノ順位ハ概ネ着手緊急順位ニ依ル)

### 〔疎開促進及諸建物等ノ整理〕

#### (1) 流入制限

(1) 即日要疎開都市ヘノ轉居ヲ禁止乃至制限ス

(2) 轉居ヲ認ムルモノ左ノ如シ

一、官公吏、會社員等、官廳、學校、商社等ノ職員ニシテ職務上東京ニ赴任スル者

二、其ノ他ハ緊要已ムヲ得サルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ得タルモノ

(3) 前項ノ者ト雖モ都市疎開ガ一應ノ進展ヲ見ル迄ハ差方リ家族携行ヲ見合サシム之ガ爲高級料理店、待合、旅館、大邸宅等ヲ官廳、

商社等ニテ徵收用シ單獨赴任者ノ宿舍ニ充ツ（之等ハ都市ヨリ家族ノミチ疎開セシムル單獨者ノ宿舍ニ充ツ）

疎開措置一應進展シタル後ト雖千已ムチ得ザル者ノ外家族携行チ行ハザル如ク指導ス

以上ハ東京都ヘノ流入者ニ就キ示セル基準ニシテ東京都ヨリ他ノ要疎開都市ヘノ流入者ニ就キテハ東京都疎開ノ第一義的必要性ニ鑑ミ先ツ此會ニ家族ノ他地方ヘノ疎開ニ努メシメ已ムチ得ザレバ前項ノ制限チ緩和乃至除去ス

(4) 單獨赴任スル者ノ荷物ハ概ネ一〇〇斤以内チ標準トス

(5) 収入ノ關係上二重生活ニ支障チ及ホス者ハ別居手當チ給スルカ又ハ單獨者ノ給與チ官廳、商社等ニテ補助又ハ負擔ス

(ロ) 一般疎開

(1) 強制疎開セシムル者左ノ如シ

一、無職者及其家族（子女ノ教育チ居住ノ主目的トシアル者チ含ム）

二、該都市ニ職場ヲ有セザル者及其家族

三、要度之シキ職務ニ従事シアル者及其家族（形式的ニ近キ顧問、囑託、各種委員其他）

四、遺族、留守宅等ニシテ本來該都市ニ本據ヲ有セザリシ者

五、其他前項ニ準スル家庭

(2) 強力ニ疎開ヲ勸奨シ要スレバ強制スルコトアルベキ者左ノ如シ

（手段療法ハ職域別又ハ地域別等ノ割當テ制等ニ依ル）

一、老人、病人、幼兒等空襲時ノ足手纏ヒヲ拘キアル家庭ノ家族

二、疎開ノ要度大ナル密集地區又ハ工場地區等ニ居住シアル家庭及

防空區劃設定計畫上除去スベキ家屋ニ居住シアル家庭ノ家族

（本項家庭ノ該都市他地區ヘノ轉居ハ強制ニ依ル）

三、家族中該都市ニ職場ヲ有スルハ單ニ一人ナル家庭（二人以上ノ

有職者ナキ家庭）ノ其他ノ家族

四、其他前諸項ニ準スル家庭ノ家族

(3) 前記(1)及(2)ニ該當セザル家庭ノ疎開ハ勸奨ニ依ル

(4) 疎開ニ依リ單獨トナリタル者ノ收容施設ハ流入制限ニ依ル單獨赴任者ノ收容施設ト同様ノ措置ニ依ル

(5) 疎開先

疎開先ハ當初任意トスルヲ努メテ都市ヲ避ケシム但シ所要ニ應ジ將次疎開先ヲ指定スルコトアルベキヲ豫期ス

右ヲ一般ニ布告シ疎開ノ勸奨促進ニ利用ス

(6) 疎開ニ要スル經費資材

疎開ニ要スル經費資材ハ全部國家負擔トス(資材ハ回收利用ス)尙強制ニ依ラザル自發的疎開者ニ對シテハ狀況ニ依リ適宜報奨ノ手段ヲ講ズ

疎開ニ依リ生ズル單獨者ニ對スル生活補助ニ關シテハ流入制限ノ場合ト同斷

(7) 疎開ノ度(十九年末ノ目標)



東京ハ三分ノ一其他ハ四分ノ一程度疎開ヲ目途トス

(東京ニアリテハ四月以降毎日平均約一萬人(約一〇列車)年末迄ニ二七〇萬人)

(8) 荷物ノ處理

一、疎開者ノ携行荷物ハ差方リ一人當リ二〇〇疋ヲ標準トシ其他ハ處分又ハ保管ス(東京ニアリテハ一日一萬人ニ付二、〇〇〇車約四列車)

二、物品銀行(假稱)ノ創設活用ヲ圖ル(附錄參照)

(9) 疎開後空家ノ處理

家屋密集地區ニ速ニ防火區劃及空地ヲ設定スル爲努メテ多數ノ家屋ヲ除去シ其材料ハ簡易住宅建築及補修用其他ニ充當ス

(10) 都市内大邸宅及家族ノ整理統合

住宅ノ管理公營ニ依リ疊敷等ニ依ル一定居住面積標準等ニ據リ大邸宅ノ整理、分散生活シアル家族親戚縁者等ノ住居ノ合同促進等

ヲ行ヒ空家ノ捻出ヲ圖ル

以官廳學校疎開

率先斷行（他略）

（一）木造官廳ノ移轉除去（略）

（二）會社等ノ建物俱樂部等ノ整理

官廳及宿舍等ニ利用（他略）

（三）特殊病院、刑務所等ノ疎開整理（略）

官民防空組織ノ急速刷新確立（別冊）

㊦ 工場防空急速強化

(1) 重要工場防空施設

(1) 要度乏シキ地區（都市及地方ヲ通シ全國的ニ）ノ消防々火器材

（特ニ小型手押ポンプ）及其他防空一般資材（例遮光幕）ヲ工場

及其附近ニ急速集中充足ス

(2) 井戸ノ増設一軍隊ノ協力ヲキ求ム

(3) 工場周邊地區ノ疎開徹底促進

㊧ 工場防空組織ノ完備

工場ヲ中心トスル附近防空團體トノ有機的組織確立ヲ圖ルヲトシ

具體案ハ前掲「官民防空組織ノ急速刷新確立（別冊）」中ニ詳述シ

アリ

㊨ 工場防空査察ノ實施

四、空襲時善後措置準備 完成

(イ) 物の被害、修理復興 (略)

(ロ) 食糧配給確保 (略)

(ハ) 救護 (略)

(ニ) 簡易住宅

東京ニ、アリテハ軍用天幕五〇萬人分一、一般天幕五〇萬人分計一〇〇萬人分準備（今冬迄ニ之ヲ收集又ハ整備ス）（他略）

(五) 空襲被害局限準備訓練徹底 (略)

(六) 衣類身廻品ノ豫託 (略)

(七) 空襲ニ對スル森林防護 (山火事防止) 對策ノ研究實施ヲ促進スルヲ要ス

附 錄 物品銀行（假稱）案

（方針） 空襲時被害ノ回避、疎開輸送ノ輕減、保有物資ノ積極利用等ヲ計ル爲物品銀行（假稱）ヲ設立シ物品ノ受託及爲替業務ヲ行ハシム。

（要 領）

第一、物品銀行ハ非營利機關トシ、東京ニ主タル事務所、各要地ニ出張所ヲ設ケ、倉庫業者運送業者其他ヲシテ實務ヲ擔當セシメ經營ハ國家員擔トス。

第二、預託又ハ爲替申込ヲ受クル物資ガ代替性ヲ有セザル場合（例、衣類、家具）ハ同一使用價值ノ物資ヲ以テ拂出シチナス。

右ノ場合ニハ受託ニ際シ買取リ代金ヲ交附シ且ツ受託證明書ヲ交附ス。

代替性ヲ有スル場合（米、炭等）ハ證明書ノミチ交附スルコトアルベシ。

第三預託品ノ拂出シハ空襲被害其他必要ヲ生ジタル時ニ限ル。

第四物品爲替ノ疎開先ニ於ケル拂出シハ一定限度及範圍内（例ヘバ炭十畿ノ内二俵）ニ於テハ即時トシ、其他ハ段階ヲ設ケ逐次拂出シヲナス。

第五偏在セル物資ハ輸送力ト睨ミ合セ本銀行ニテ一括現送ヲ行フ。

第六物品銀行ハ拂戻シヲナサ、ル單純ノ買止又ハ必要時優先的ニ物資ヲ賣渡シ得ル證明書付買上ヲ行フ。

第七證明書ハ原則トシテ讓渡シ得ザルモノトス。

第八證明書交附ノ手数料ハ低額、能フレバ無料トス。

第九本銀行ヲシテ各地ニ於テ必要物資ノ割當供出ヲ受ケ得ル如ク法制上ノ措置ヲトル。



四、生活徹底ノ覺悟ト食糧配給ノ改善整備

「國民生活ノ決戦化」

〔國民生活決戦化ノ消費面ニ關シテハ農商省、勤勞面ニ關シテハ厚生省  
啓發宣傳ニ關シテハ情報局ニ責任並ビニ主務ヲ一元化シ、コレヲ一層明確ナラ  
シム

〔物質生活（主トシテ重要都市及地域）

要ハ環境ノ整理ニアリ

(1) 食糧ノ配給

(1) 主食ニツキテハ外食禁制度ヲ原則化ス。

(2) 隣組共同炊事ヲ強力ニ勸奨シ、且ツ飲食店、料理屋ノ企業整備ヲ  
行ヒ市民食堂ニ轉化シ、コレヲ多數開設シ、從來ノ原料配給ニ代  
フルニ製品配給ヲ普及シ、以テ

(1) 疎開ノ促進（疎留者ノ便宜）

(2) 勞務ノ供出（家庭勞働ノ軽減）

(3) 資材ノ節約（特ニ燃料）

(4) 公正感ノ確保（食生活ノ平等）

(5) 闇ノ根絶

等ヲ期ス。

自家炊事ハ例外トシテ認ムルモ配給量ニ於テ割損トス。持歸リ食  
事ハ奨励ス。

(ハ) 蔬菜ハ都市トソノ專屬供給圏内農村トノ契約ニヨリ、市ノ責任ニ  
於テコレヲ確保シ、水産物等ニ關シテモ統制機關ヲ強化シ都市ト  
ノ連絡ヲ密ナラシム。コレヲ生鮮食料ノ菟荷卸機構ハ公營トシ、  
其他加工食料ニ就テモコレニ準ジ簡素化ス。

(ニ) 共同炊事所、市民食堂ヲ經由セザル末端配給品ハ綜合配給所ニ於  
テ行ハシメ、點數選擇制トス。

綜合配給所ノ組織ハ業者、自治團體及町會々員ノ共同出資ニ依ル  
公的施設トシテ自治行政當局ノ指導下ニ會員ヲシテ運営ノ責ニ任

ビシム。

(1) 加給ヲ受クベキ年少者ノ營養ハ原則トシテ从食券ヲ要セザル學校  
又ハ職域ノ給食トス。

(2) 一億戰區配當ノ今日假令重要職場一軍、官ヲ含ムト雖モ必要以  
上ノ差別加給ヲナサザルコト

(3) 加工貯藏用食糧ノ生産ニ當リテハ學徒ノ利用ヲ行フ。

(2) 住居

(1) 公共管理ヲ行ヒ同居、轉居、交換ヲ命令シ、住居ト職場ノ近接化  
ヲ計リ、能率ノ増進、交通ノ緩和、防空ノ徹底ヲ期ス。寺院等モ  
積極的ニ利用ス。

(2) 地域圏城主義ヲ獎勵シ、積極的ニ便宜ヲ計ル。特ニ官吏ノ卒先垂  
範ヲ計ル。

(3) 一般新築ハ禁止ス。

(3) 衣料

(1) 作業衣、補修材料、子供用等絶対必需品ヲ除キ新規製造禁止  
(2) 退職品及未販賣品ノ買上保管

(4) 其他生活ノ簡素化決戦化

(1) 常時防空服裝トス。

(2) 男子ノ長髪ヲ禁ズ

(3) 酒、煙草ノ一般の廢止ヲ行フ

(4) 冠婚葬祭ノ徹底的簡素化、贈答宣會ノ禁止

(5) 貯蓄

(1) 源泉ニ於ケル強制貯蓄ノ斷行

(2) 貯蓄計畫遂行ニアタリ大藏省ト逓達省貯金局トハ必ズ一致行動ヲ  
トラシムベク、場合ニヨリテハ大藏大臣ニ區處權ヲ與フ。

(3) 郵便貯金事務ノ繁忙ニ對シテハ金融機關ヲシテ補助セシム。但シ  
現行預金種目ハ徹底的ニ整理スルヲ要ス

(4) 疎開並ビニ空襲被害ト地域別貯蓄割當トノ間ニ機動性ヲ計畫スベ  
シ。

五、空 間ノ徹底

(一) 都市及近郊ニ於テハ一定面積（例ヘバ三十坪）以上ノ空地、庭園ニ付テ強制利用ヲ行フ。灌利者自作セザル場合ハ適當ナル者ヲシテ利用セシム。收穫物ハ原則トシテ耕作者ノ使用ニ供セシム。

(二) 空地利用ニ關シテハ家庭、隣組、學校生徒、青少年團、壯年團、産業報國會其他ヲ利用動員ス

(三) 特ニ耕作不慣ナル者ノ動員ニ當リテハ病虫害ノ發生ニ對シ作法、作種ノ指導ヲ要ス。

(四) 面積ノ擴大、日光ノ利用、兼ネテ防空ニ資スル爲、塀垣根ノ撤廢ヲ勸

六、製造禁止品目ノ擴大ト規格統一ノ徹底  
絕對必需品ヲ指定シ、ソレ以外ノ製造ヲ禁止シ製造品ニアリテハ規格  
ヲ極端ニ統一セシム。現ニ高率ノ消費税ヲ課シ居ル品目ハ全部販賣製造禁  
止トス。姑息ナル例外妥協ヲ避ケベシ。

## 七、高級享樂ノ

營業的娛樂ハ全面的ニ停止セシム。現行娛樂機關中健全ナルモノニアリテハ職場慰問興行ニ利用ス。

但シ都心等ニ於ケル大娛樂設備ノ利用ハコレヲ避ケ。

娛樂業人員ノ一部ハコレヲ勞務ノ對象トシ設備ノ一部ハコレヲ他ニ轉用ス。高級料理店中利用シ得ルモノハ市民食堂又ハ職域宿舍トス。

廢止スベキ職業（參考案）

待合、料理屋、カフェー、酒場、喫茶店、遊戯場、娛樂場、美容院家事使用人、花卉、小鳥、盆栽、造花、小間物、化粧品ノ製造販賣業、遊藝指南等、

## 八、重點輸送ノ強化

(一) 軍需物資疎開貨物等ノ重點輸送ヲ徹底的ニ強化スル爲旅行並個人的貨物（小荷物、小包等）ノ許可制度ヲ樹立ス之ニヨリ

(二) 買出部隊ノ徹底的禁止（都市蔬菜自給圈ノ確立ヲ要ス）

(三) 徵用工員及其親族ノ一年間其ノ郷里工場間ノ往復禁止

(四) 入營應召ノ親族附添禁止

(五) 無料乘車券ノ徹底的整理

(六) 官廳構限ノ徹底的地方委讓ニヨリ地方工場、會社ノ大都市出張所ノ整理ヲ行フ

(七) 客車座席ノ徹底的改造

(八) 同時差出勤ノ徹底及日曜休日ノ廢止ニヨリ輸送量ノ平均化ニ資ス

(九) 小運送強化ノ爲輸送挺身隊ノ活用ヲ強化ス



九、海運力ノ刷新強化

(一) 船舶建造ニ就テハ規格統一作業工程單純化ヲ徹底的ニ行ヒ徵用工ノ使役ヲ容易ナラシメ特ニ木造船燒玉接關ノ大量増産ノ爲大筋メーカ一ノ進出ヲ計ル

(二) 船舶運管ノ強化

(イ) 海運總局、船舶運管會、〇船運航實務者ヲ包含シタル中央海運機構ノ樹立

(ロ) 船員ハ全テ之ヲ軍屬トシ船主トノ雇傭關係ヲ斷絶セシム

(三) 荷役能率ノ向上

(イ) 各港荷役最高所要々員ヲ確保シ之ヲ軍隊組織化シ荷役作業ニ使役セザル時ハ訓練又ハ船舶建造其他軍需工場ノ應援ヲ爲サシム

(ロ) 荷役ニ關シ所要アラバ所在軍隊又ハ輸送挺身隊ノ應援ヲ求ム

(ハ) 荷役設備ノ不急箇所ヨリノ重點再配置(引込線ヲ含ム)ヲ急速強化實施ス

一一三、保有物資ノ積極的活用

本項ニ關シテハ左ニ着眼ス。

(一) 原料資源 (例ヘバ屑紙) ノ回收

(二) 完成資材 (例ヘバ高級寫眞機プリズム望遠鏡、ミシン、板ガラス、フ  
トン、衣類) ノ保存利用

(三) 供出後ノ倉庫等收容力ノ擴大、保管負擔ノ輕減

(四) 廢物資 (未申告品) ノ吐出シ

(五) 燃燒物ノ除去

(六) 空襲被害ノ分散

(七) 供出物資ノ保管、再配分機關ノ設置 (物品銀行)

而シテ活用スベキ物資ハ至急登録又ハ申告セシノ必要ニ憑ジテ強制買  
入ヲ行フ

四、信賞必罰ノ徹底ト查察ノ強化

〔時局〕 係産業團體ニ主トシテ民營ニ等ニ對シ強力ナル常置監察並賞罰制度ヲ創設ス

(1) 任務權限

主トシテ幹部以下ニ對スル精神的方面ノ指導監督ニ任セシメ且ツ之ニ對スル賞罰權ヲ有セシム

即チ經營方針等ノ私利的非國家的傾向ヲ指導監督防止スルト共ニ幹部以下工員ニ至ル迄ノ行動、勤惰、生活等ヲ指導監察セシメ一定ノ賞罰權ニ通常最高幹部ニ對スル賞罰權ヲ除クニ付與シテ現地即應ノ信賞必罰制度ヲ確立シ極賞ノ適正及非違ノ防止掃蕩ニ遺憾ナカラシム

(2) 機構

通常地方事務監察部長ニ隸屬セシメ所屬ノ企業團體毎ニ常置スル地方軍需監理部毎ニ強力ナル本機關一箇ヲ常置シ巡回監察セシムル案

を考へラルル

組成ハ企業團體ノ種類大小ニヨリ異ルモ勲、奉任級官吏一乃至數名トス

從來ノ監督官制度トハ一應別備ニ考へアリ、要スレバ勲勒ゼシムルコトモアルベク又更ニ研究ノ結果兩者チ一體トスルチ可トスルニ至ルマモ圖ラレス

### (ハ) 設けスベキ團體

時局重要軍需工業、重工業ヲ主トスルモ所要ニ應ジ其他一般會社、統制會、營團特殊法人等ニ及ブ一本制度チ官公署ニ對シテ迄實施スル件ハ目下考慮シアラズ

### (ニ) 附帶事項

(1) 本制度ノ創設ニ伴フ民間會社職員、工員等ニ對スル從來ノ賞罰規定及制度ニ關シ全面的再檢討ヲ加ヘ新賞罰規定ヲ制定スル要アリ

(2) 産業團體ノ高級幹部等ニ對スル賞罰權ハ所要ニ應ジ地方軍需管理

部長又ハ之ニ準ズル長官乃至各省長官ノ權限トス

(3) 本制度ノ運用ニ方リテハ特ニ監察ニ任ズベキ官吏ノ人選ヲ重視スルヲ要シ且ツ之ガ任期服務規定及其勲勞ノ監督等ニハ特別ノ配慮ヲ拂フノ要アリ

曰主トシテ官公署ニ對スル常時查察制度ヲ創設シ事務ノ急速刷新ヲ圖リ併セテ官公吏賞罰ノ資料ヲ收集ス

(4) 内閣及各省ニ所要ノ常置查察員ヲ置キ隨時内閣及各省毎ニ又ハ合同シテ查察機關ヲ編成シ所要官公署ニ對シ頻繁且徹底セル查察ヲ行ハシメ行政ノ決戰化、隘路ノ打開等急速刷新ヲ圖ル

右查察員ニハ廣ク民間ヨリモ人材ヲ拔擢シ又廣ク官民ヨリ臨時查察員ヲモ任命活用ス

(5) 右查察機關ニ官公吏賞罰資料ヲ收集セシメ長官ノ參考ト爲ス

(6) 本查察制度運用ニ方リテハ目的ニ應ジ或ハ全然他官省ノ官吏ニヨル查察ヲ行ト或ハ同一官省ノ官吏ノミニヨル查察ヲ行ト或ハ之等ヲ混

用スル等妙味ヲ發揮セシムベキモノトス

(二) 右ノ外現ニ政府ニ於テ採用實施セラレアル陸海軍ノ隊長檢閲制度ニ  
漸ズル本願系統ニ依ル查察ハ當然活潑ニ運用セララルベキモノトス  
(三) 權威アル工場診斷機脚ヲ常設シ查察ノ一補トシテ工場診斷ヲ活潑ニ動  
行ス(細部省略)

一五、國民運動ノ展開

〔日 標〕

- （一）必勝信念ノ堅持ト總力戰意識ノ徹底
- （二）戰力増強（生産増強ト食糧増産）
- （三）國民生活ノ徹底的簡素化及家庭ノ戦力化
- （四）防衛態勢ノ強化

〔時 期〕

（一）政府ノ決戦非常措置ヲ決意セルヲ契機トシテ現時期ヲ起點トス

（二）約一ヶ月後ニハ前項ノ運動ノ經過ニ鑑ミ戰局等ニ即應シ稍恒久的ナル目標ニ移行ス

〔措 置〕

（一）運動ノ基調ヲ天皇陛下ノ信仰ノ徹底（國體明徴）ト個人主義利己主義ノ排撃ニ置キ都市農漁山村ノ特殊性ヲ尊重シ且戰域ノ特殊性ニ立脚シタル運動ヲ展開ス

(一) 都市ニ於ケル運動ノ主目標ヲ簡素生活、防衛態勢ノ強化徹底ト家庭ノ勞力餘力ヲ擧ゲテ踐力化スルコトニ留ク

(二) 農村ニ於ケル主目標ヲ食糧増産ニ留キ殊ニ供出ノ觀念ヲ義務的ヨリ戰力増強ヘノ積極自發的寄與ニ切換ヘ大凡本年ノ一割増ヲ用途トシテ供出スベク増産挺進ノ決意ヲ込ケス、漁山村亦同ジ

(三) 職域ニ於テハ各事業場ヲ、地域的ニハ町内會、部落會ヲ運動ノ單位トシ自發的ニ國家隆替ノ岐路ニ立テル時ナルヲ認識シ去私就公ノ精神ヲ強調シ職域ニ於テハ生産増強、地域的ニハ簡素生活ノ徹底化ト家庭ノ餘力ノ踐力化ヲ目途トシ夫々具體的ナル實踐目標ヲ決議實行ス

(四) 指導者、上層階級ノ職域及生活ニ於ケル卒先垂範ヲ期ス

(五) 學生々徒ノ決意ヲ込ケシ之ヲ家庭職域ヘノ推進力タラシムル爲各學校、國民學校、中等學校ハ教員ノ指導ニ依リ、專門學校以上ハ學生ノ自發的ニニ於ケル具體的實踐事項ヲ定メ之ガ運動ヲ展開ス



(1) 大政翼賛會、警政政治會、翼賛壯年團ヲ含ム、及傘下職能團體ヲ

總動員シ本運動ノ指導的中核體トス

各府縣ニ於テハ即時協力會議ヲ開キ各府縣ニ即セル具體的運動目標ヲ確立ス

時期ヲ俟テ中央協力會議ヲ開催シ全國的運動ノ昂揚及調整ヲ爲ス

(2) 國民運動ノ展開ニ即應シ急速ニ簡明ナル戰時國民生活訓ヲ設定シ、

コレヲ反覆國民ノ腦裡ニ刻マシメ、實踐ノ基固タラシム。

「戰時國民生活訓」總力戰研究會試案左ノ如シ

一、朝夕天子様ヲ拜奉ル。

二、人ハ皆天子様ノ赤子ニテ、物ハ皆賜リ物、御預リ物ナルヲ思

フ、時モ亦同ジ。

三、常ニ戰場ニ在ルヲ思ト、進ンデ凡テヲ簡素ニス。

四、眼ノ前ノ事、才互ノ事ニ怒ラズ常ニ敵ニ怒ル

五、物ヲ作リテ賣ルト思ハズ、國ヲ養ヒ戰トニ勝ツガ爲ナリト心

得フ。

四 本運動ニ對スル留意スベキ事項

- (1) 現段階ニ於テハ悲壯感、緊張感ハ活用シ本運動ノ胆力展開ヲ期スベ  
モ之ガ爲悲觀的、敗戰的氣運ヲ生ビザル様留意ス
- (2) 地域的、職域的ノ具體的運動目標樹立ヲ重視ス
- (3) 戰時生活ニ於ケル感情ノ尖鋭化ヲ防ギテ避ケ、全國民「常在戰場」ノ意識  
ヲ強調スルト共ニ家庭生活、社會生活ノ親和、信愛ノ情意ト行動ノ  
育生ニ留意ス
- (4) 運動ノ目標ハ差當リ具體的實踐的ナルモノヨリ漸次實踐ヲ通ジ精神  
的ニ深化ス
- (5) 具體的運動トシテノ獻命、決死運動等ハ自發的ナラシメ強制ニ互ル  
ヲ避ケ、直接戦力増強ニ資スルヲ目途トス

一六、國民指導啓發

一、指導ノ組織及方法改善策

（一）一般國民大衆（都市勤勞階級、地方農民階級等）ト都市知識階級ニ

對スル啓發方法ヲ區別スルコト

（二）啓發ニ練達セル專門官ヲ地方ニ配置シ啓發ヲ積極化スルコト

（三）官民中ノ適任者ヲ大量動員シ之ニ常時指導方針ヲ授ケ工場、學校等

ニ派遣シ形式的ナル講演會ニ依ラス座談會ノ方法ニ依リ勤勞階級ノ

啓發ニ當ラシムルコト

（四）町會、隣組等下部組織ヲ通スル啓發ニモ積極的ニ努力スルコト

（五）知識階級ニ對シテハ其ノ職場其他適當ナル場所ニ於テ隨時當局關係

官ヨリ之ガ啓發ニ當ルコト

（六）「デマ」的報道ニ對シテハ取締ヲ嚴重ニシ下等ナル報道機關ヲ徹底的

ニ拂拭スルコト

（七）新聞、雜誌、「ラジオ」、映畫等ノ活用ニ當リテハ單ナル報道ノ外

平易ナル解説批評ヲ加シ平坦性、劃一性ヲ避クルト共ニ正常ナル認識ノ深化ニ努ムルコト

ハ特ニ新聞ヲ通スル啓發ニ留意シ又必要事項ノ周知機關トシテノ機能ヲ發揮セシムルコト一徹底事項周知欄（例防空服裝日）ノ新設、一ラジオ一講演ノ特記、廣告欄ノ整理

四一般大衆、青少年ノ耳目ニ入り易カラシムル爲寫眞、繪畫、漫畫、一ポスター一等ノ活用ニ當リテ俗惡低調ニ陥ラサル程度ニテ適宜揶揄、警句等機智ニ當ミタル表現ヲ工夫スルコト

三、輿論指導上注目スベキ諸點

一、我が國體ノ精華、皇國精神、歴史的傳統、大東亞戰爭ノ意義ヲ反覆強調シ、必勝ノ信念ヲモタシムルコト

二、戰局ノ現状ニ關シテハ可及的速カニ且真相ヲ明カニシ其ノ重大性ヲ指摘シ以テ國民決戰態勢整頓ノ喫緊ナル所以ヲ明確ナラシムルコト  
三、戰局ニ對スル悲觀論及樂觀論ヲ戒ムルト共ニ將來ニ對スル希望ヲモ

タシムル様指導スルコト

四 戦争短期終結願ヲ抑壓シ長期戦不可避タルコトヲ認識セシムルコト  
五 米英ノ野望、獨勝及ビ敗戦國ノ惨狀ヲ指摘シ最後迄戦ヒ拔ク不屈不撓一億敢闘ノ精神ヲ植付クルコト

六 米國ノ東亞ニ於ケル野望、日本抹殺論、熾烈ナル對日復讐心ヲ指搦シ敵愾心昂揚ニ努ムルコト

七 米國ノ内政上ノ變化、同盟罷業、抗戦力ノ弱點等ノ過大評價ヲ抑制スルコト

八 英國ノ東阿失地回復ノ執拗ナル野望、狹狹陰險ナル謀略ヲ強調スルコト

九 猶太人ノ世界謀略ヲ一層強調スルコト

十 樞軸與國ノ情勢推移ニ對シ一真一摠ヲサシ、ザル様指導スルコト

1668

# 極秘

「インフレーション」ニ關スル「メモ」

一九一九一四

囑託 幣 瀨 太 郎

## 一、現 狀

我國ニ於テ現在「インフレーション」ガ進行中ナリヤ否ヤノ判定ハ極メテ慎重ニ考察スベキモノナルモ少クモ對策ヲ誤レバ充分ソノ可能性アリト考フルヲ適當トセン。

## 二、原 因

左ニ掲グル原因ハ互ニ錯雜シ、コレヲ分離スルハ困難ナリト雖モ理解ノ便宜上大体五ツニ分ツコトトス。

### （一）國家資金計畫ノ不適當

現行ノ國家資金計畫ハ國民所得ノ算定ニ出發シ居ルモ、ソノ算定方法不明確ニシテ實體把握ニ欠クル所アリ。財政資金ノ總額ヲ先ニ決定シ之ニ順應シテ國民所得額ヲ決定セル傾向大ナリ。又産業資金ノ

算定ハ全ク名目的ニシテ、是等ノ差引殘高トシテ國民消費資金ハ生計費ノ實際ト照應シテ不適當ト認ムベキナリ。更ニ國民貯蓄目標額達成ヲ中心トスル資金吸收計畫ハ時期的、地域的ニ機動性ヲ欠ク憾多シ。

### 日 産業資金撒布ノ過大

大藏大臣ノ議會説明ニ依レバ本年度ノ産業資金ハ年間計畫六十億圓ニ對シ、五ヶ月間ニ撒布額既ニ百二十億圓ヲ超エタルモノノ加ク、ソノ原因ハ一ナラズト雖モ現在ノ如ク網對生産額ノ増加ヲ期待シ得ザル時期ニ於テハ著シキ資金ノ非効率アルヲ示スモノナリ。

### 日 實質的生計費ノ昂騰

低物價政策今ナホ原則トナリ居ルモ、昨今ノ配給狀態ニテハ公定價配給品ノミニテノ實際生活困難ニシテ實質的生計費ハ昂騰シツツアリ。定收入階層中ノ少額所得者ニアリテハ貯蓄ノ如キハ問題トナラザル狀況ナリ。

#### 四 自由勞務者賃銀ノ昂騰

主トシテ土建。運送關係ノ自由勞務者ノ賃銀ノ昂騰ハ産業資金撒布ノ過大ト原因トナリ結果トナリテ底止スル所ナク、賃銀、勞務動員兩体制ヲ亂スコト大ナリ。

#### 四 海外物價昂騰ノ波及

今次追加豫算ニ現レタル如ク主トシテ支那ニ於ケル物資徵辦ノ爲ノ支出額増大シ、コレハ一應海外借入金ニヨリ支辨シ國內ニ影響ナキ如キモ、爲替相場釘付制度（所謂圓元バー）ヲ通シ實質的潜在的ニ國內物價ニ重大ナル影響ヲ及ボシツツアリ。

#### 三 對策

對策ノ細目ハ容易ナラザルモノアリト雖モ大綱左ノ如シ

- 一 國家資金計畫ノ適正化、機動化
- 二 財政資金、産業資金撒布ノ適正化
- 三 配給、物價兩政策ノ強方化



円貨銀、勞務動員政策ノ整備

円海外物價昂騰波及トノ綱縁

右ノ遂行ノ爲ニハ軍官民各層ニワタリ現状認識ノ徹底ト相互ノ緊密ナル  
協力ヲ要シ、獨リ資金面ノミニテハ實效ヲ期シ難シ。

以上。

極秘

昭和十九年八月

海上輸送力増強對策

總力戰研究所

(61)

(c)

## 海上輸送力増強對策

### 第一、要旨

海上輸送力ノ増強ハ戰爭遂行ノ成否ヲ決スベキ最重要鍵鑰ノ一ナリ從テ之ガ具現ノ爲ニハ船腹ノ増強並ニ輸送能率ノ増進ヲ目途トシテ嶄新ナル創意工夫ノ下特段ナル措置ヲ講ジ以テ之ヲ強力ニ推進スルノ要アルハ言ヲ俟タズ

尙現下ノ狀勢ニ於テ特ニ留意スベキハ左ノ三點ナリトス

- 一、A・B・C船ノ一元的運營
- 二、船舶損耗防止ニ關スル劃期的措置
- 三、重要港（特ニ阪神、關門、洞海湾等）ニ於ケル荷役力増強

### 第二、措置

- 一、A・B・C船ノ一元的運營（但純作戰用船腹ヲ除ク）
  - A・B・C船ノ運營ハ計畫實施ノ總テニ互リテ之ヲ一元化スルヲ理想トスルモ實施機構ノ變革ニヨル能率低下ヲ避ケル爲差當リ中央ニ

「戰時輸送本部」ヲ地方ニ其ノ「支部」ヲ設置シ計畫ノ一元化ト實施面ノ一元的指導ヲ行ハシムルモノトス

○戰時輸送本部

(4) 任務

中央（本部）

(1) 海陸輸送力ノ綜合的計畫樹立竝ニ其ノ運営指導（交通動員計畫及ビ輸送計畫ノ樹立竝ニ各關係官廳ニ對スル指示命令）

(2) 殊ニ A。B。C 所屬船輸送計畫及ビ配船計畫ノ一元的樹立ト其ノ運営指導

(3) 空襲其他非常事態ニ際シテノ各輸送力ノ機動的活用

(4) 其ノ他輸送ニ關スル重要ナル方策ノ樹立推進

地方（支部）

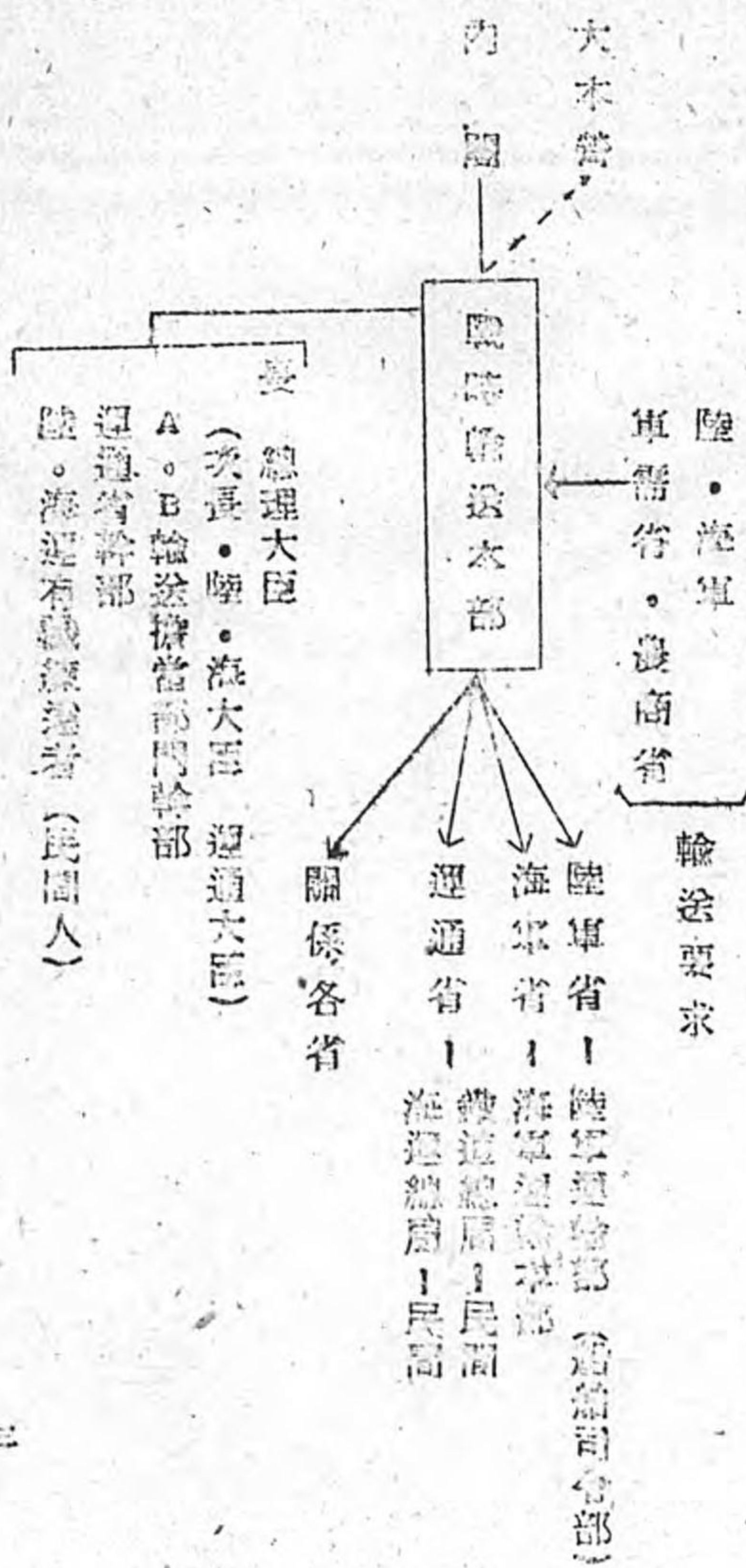
(1) 當該地方海陸各般輸送機關ノ連絡調整關係地方官廳ニ對スル指示命令

(c) 殊ニ當該地方港灣ノ綜合的運營於ニA・B・C所屬船ノ荷役調  
整

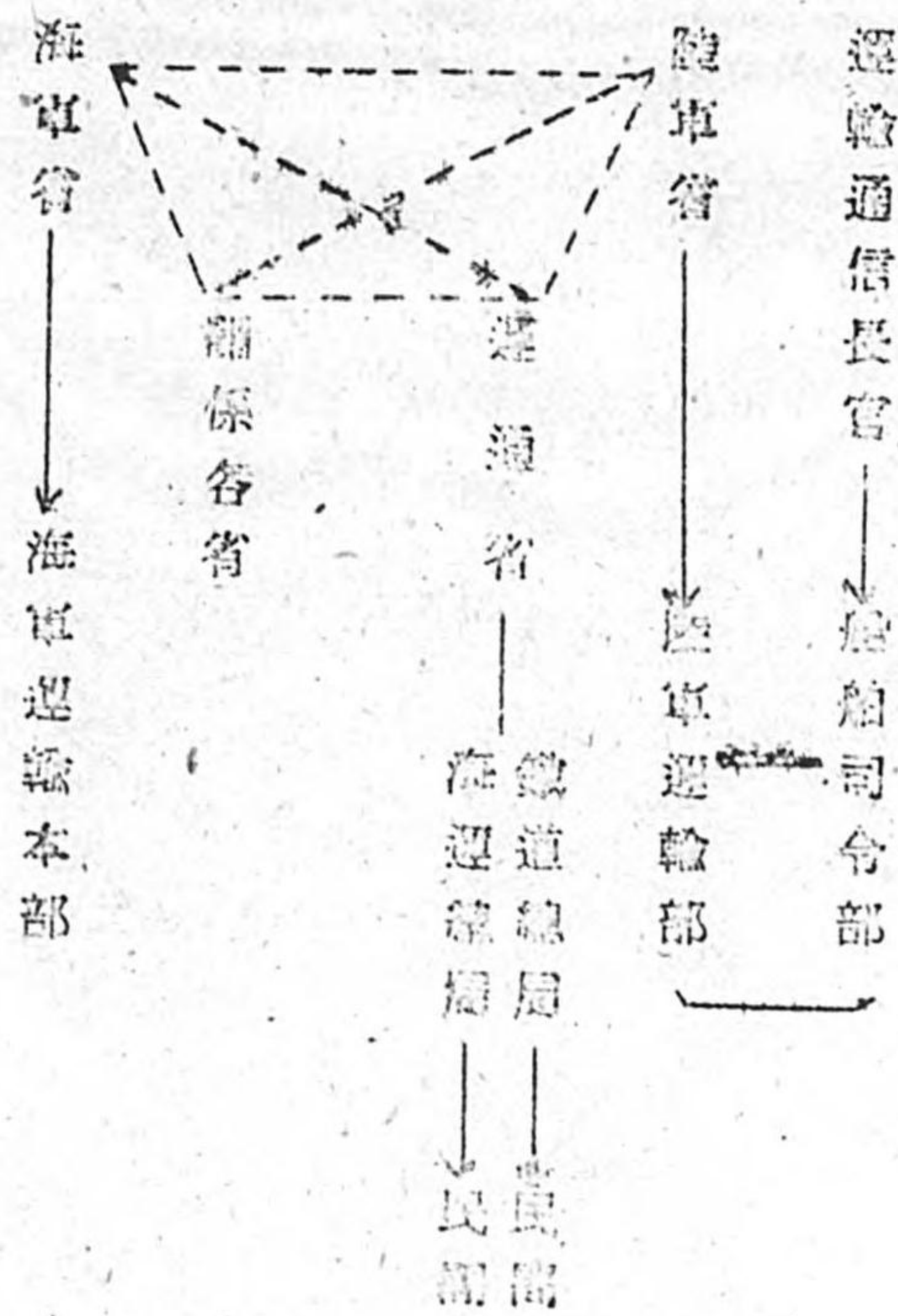
(d) 空襲其他非常事態ニ際シテノ各輸送力乃至施設ノ機動的活用

(e) 其ノ他本部ノ命ズル事項

(3) 中央(本部)



參 考 現 狀



(8) 地方

戰時輸送支部

陸軍碇泊場司令部  
海軍運輸部 (又ハ支部)

地方海運局

運管會支部  
港運業者・沿岸荷役業者  
倉庫業者

地方鐵道局 → 陸上小運送業者

地方行政官廳

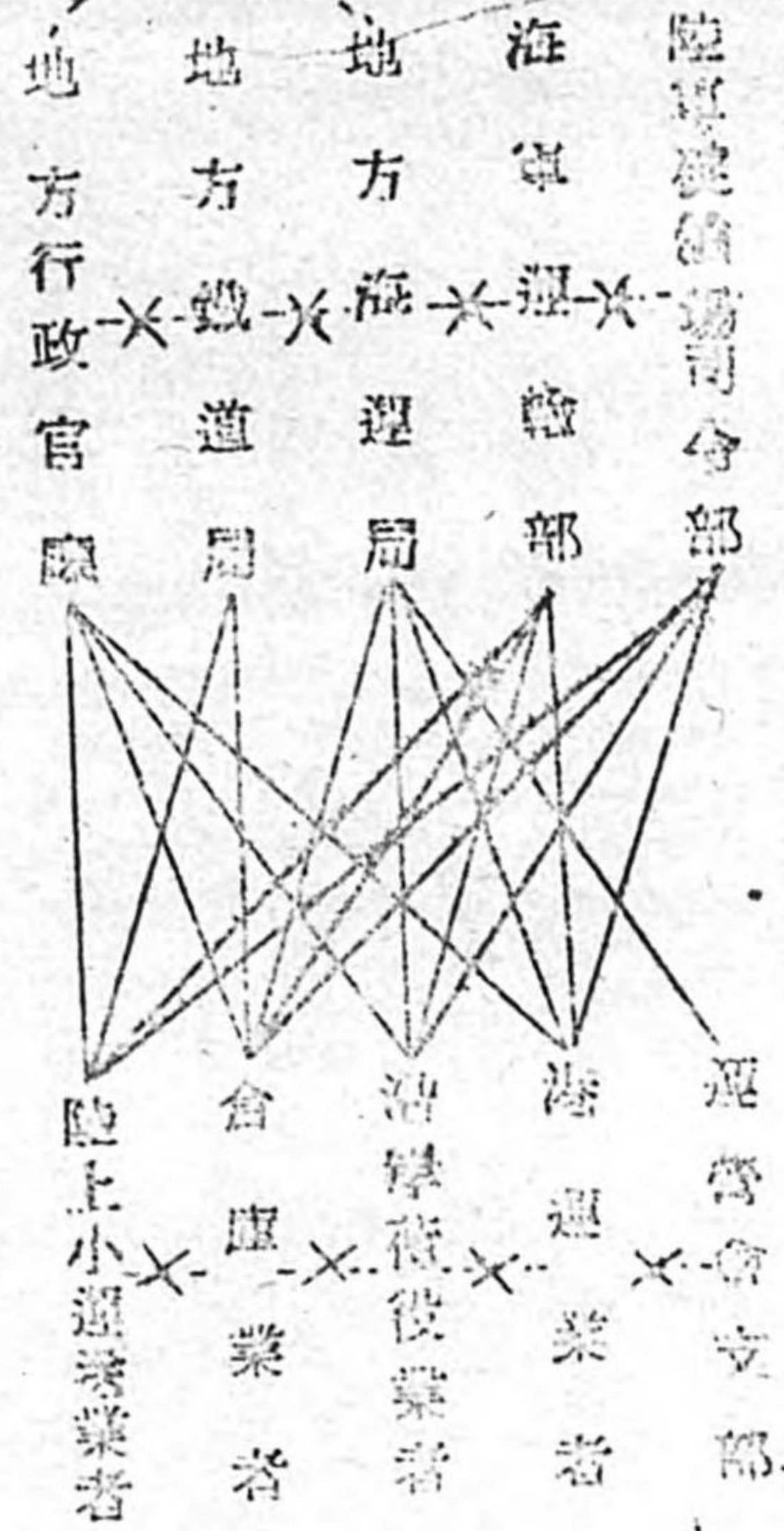
長

陸軍碇泊場司令官  
海軍運輸部長 (支部長)  
地方鐵道局長  
地方海運局長  
地方行政官廳長  
民間業者幹部

計

民間業者ニ對スル命令ハ總而一監  
督官廳ノミヨリナサルベキコト  
但支部構成民間業者幹部ハ決定專  
項ヲ直チニ實施スルガ如ク措置ス  
ルモノトス

参  
考  
理  
状



許 次轉的措置トシテハ差當リ範圍ヲ海運關係ニ限定スルモ一案  
ナリトス



二、船腹損耗防止ニ關スル劃期的措置

(一) 腹強強化

(1) 護衛兵力（艦艇・航空機）擴充強化

(2) 對潛對空兵器ノ完備

(二) 船舶自衛能力ノ向上

(1) 對潛對空防禦兵器ノ設備

(2) 防沈防火見張其他保安裝置ノ整備

(3) 右要員確保ト其ノ訓練ノ徹底

(三) 所要地點ニ於ケル索敵並ニ航行保安施設ノ擴充整備

（電探、水中聽音機、航路標識、方向探知機等）

三、重要港ニ於ケル荷役力增強（特ニ阪神、關門、洞海濱等）

(1) 計畫荷役勵行殊ニA・B・C船荷役ノ調整及ビ船團ト荷役下ノ調

整（戰時輸送地方支部設置、港灣運營体制整備強化ニヨリ實現）

(2) 解ノ稼働率向上

(4) 船ノ修理促進及ビ新造促進（遊休無機動木船ノ改造轉用）  
計、重要港ニ於ケル船ノ二割以上ハ修理澁滞ノ爲使用不能

(ロ) 倉庫減少化

「計」例之、阪神ニ於ケル船ノ六ノ七割ハ倉庫トナリ居レリ

(1) 沿岸荷役及陸上小運送ノ強化（鐵道貨車配車圓滑化）

(2) 岸壁上屋倉庫等ノ草・官物資等ニヨル長期占據排除

「計」例之五ノ六月頃大阪ニ於ケル倉庫ノ廿八草物資殘存ノ

八〇%ハ農商物資二〇%ハ銑鋼ニヨリ長期占據サレ殆ン

ト滿倉状態ナリ

(3) 貨物引取促進（荷主ノ積極的協力、非協力者ニ對スル責任追求）

(4) 物揚場ノ擴充（防空疎開ヲ兼ヌ）

(イ) 船用曳船確保（例之、阪神ニ於ケル使用不能曳船五割）

(ニ) 利用度低キ港灣ノ船庫用促進

(三) 利用度低キ港灣ノ荷役機械轉用並ニ荷役ノ簡易機械化ニヨル労働

力ノ節約ト荷役能率向上

#### 四 荷役勞務強化

- (1) 荷役勞務者ノ優先割當及ビ徵用停止（現員徵用——徵用）
- (2) 沿岸荷役勞務ノ統制強化（ソノ組織化ト勞務管理強化）
- (3) 勞働力ノ機動性保持
- (4) 俘虜、囚人、華人、半島人ノ活用
- (5) 勞報、勤報隊、學徒等ノ動員強化（必要ニ應ジ軍隊協力）
- (6) 勞働衣、食糧、其他生必品ノ確保
- (7) 宿舍、浴場、其他福利施設ノ強化（現在ニ於テハ沿岸荷役勞務者ニ對スルモノ殆ソド無シ）

#### 五 獎勵金制度ノ活用

#### 六 港運業沿岸荷役業等ノ強化

- (1) 港運會社ノ質的向上軍需會社法ノ準用並ニ其ノ運營會トノ連絡強化

(四) 沿岸荷役業者ノ組織化及ビ其ノ統制強化的ニ其ノ港運會社トノ  
連繫強化(漸次一体化ヲ圖ル)

「註」大阪ニ於ケル沿岸荷役業者四〇一ニ達ス

(ハ) 前二者ト倉庫業トノ連絡強化爲シ得レバ港灣別三者一体化ヲ計ル  
中繼港等ニ於テハ船内荷役、解、岸壁、沿岸荷役、倉庫、陸上  
小運送、貨車積等ヲ一貫的ニ運営シ得ルガ如ク措置スルコト  
(三) 波狀入貨ニ備ワル爲港運會社及沿岸荷役業者等ニ對スル國家補  
償制ノ確立

四 其他ノ船腹對策及輸送能率増進策

(一) 船腹増廻

(4) 新造

資材ニ制約アル現在特ニ留意スベキ點

(1) 竣工時期繰上げ(資材ノ速急製品化)

(2) 粗製濫造ノ絶滅

「計」故障續出ノ爲運營會扱改日型船ハ平均其ノ約三割ガ使  
用不能

亦陸軍扱日油槽船ニ於テハ約五割ガ使用不能ナリト稱  
セラル

(3) 燃料油運送及補修工事ノ大部分ガ機關關係ナルニ儘ミ改日型  
等機關ハレシブロ化スルコト

「計」某航受取改日型船ノ約キハ一ケ年以内ニ主機取替ノ餘  
錢ナキニ立到レリト謂フ

(四) 要修理船ノ稼働促進

(1) 新造ト修理トノ調整ハ特ニ修理ニ力ヲ注グコト

(2) 計畫修理ノ強化ト修理日數ノ短縮ハ殊ニ修理待時間ノ短縮

(3) 必要ニ應ジ法定検査ノ延期。停止

(五) 乾舷減少ハ増積ノ平均五%以上ノ強行

(1) 各船各航海毎ニ責任積載量ノ設定、勵行ハコンスタントノ局

少化)

(2) 増積獎勵金制度ノ活用

〔輸送能率増進〕

(1) 稼行率向上

(1) 海上輸送距離短縮

1. 陸運轉移強化 (空運轉移ニ關スル研究促進ヲ含ム)

2. 交錯輸送抑制

3. 迂回航路制限緩和 (戰時海上航行制限緩和)

(2) 航海日數短縮

1. 燃料炭質改善

2. 補炭地整理

3. 船底掃除ノ勵行

4. 各船各航海毎ニ基準日數ノ設定勵行

5. 獎勵金制度ノ活用

(5) 滯泊日數短縮

1. 夜間通過禁止等戰時海上航行制緩和
  2. 船團航行圓滑化（殊ニ船團待日數ノ短縮）
  3. 燃料炭油、水、船用品、食料等ノ供給圓滑化
  4. 荷役力增強（既述）
  5. 生産、配給ト輸送ノ連繫強化（出荷ノ計畫性缺除ニヨル  
停滯船乃至配船混亂防止）
- (4) 積、揚地ノ統合理殊ニ帆船、舢等ニヨル中繼集積輸送ノ  
活用（多港積乃至多港揚ノ整理）

(6) 船腹利用合理化

- (1) 不純物輸送ノ抑制（選炭、選鐵ノ強化、原料輸送ノ壓縮）
- (2) 品種ノ整理統合、小口物ノ抑制
- (3) 沿岸、内海輸送ニ於ケル木船殊ニ被曳船、帆船ノ活用、海洋  
後ノ利用

(4) 定期船、限定航路船等ニヨル重要物資輸送ノ強化並ニ造船適航主義ノ徹底

(5) 特別船舶（例之銑鋼、造船）ノ廢止

（丙）其他一般對策

(1) 船員ノ戰時勤勞意識昂揚ト資質ノ向上、新規要員確保（身分向上、待遇改善、福利施設整備、殊ニ遭難船員ノ優遇慰勞）

(2) 船舶運航体制強化

運營會ノ強化（實務者ト一体化ノ徹底並ニ實務者ニ對スル軍需會社法ノ準用）實務者ハ再整理ノ要アルベシ

(3) 民間有識練達者ノ登用、活用

(4) 海運人蹶起ノ徹底

(5) 輸送力増強ニ必要ナル通信網ノ整備（鐵道、警察電話ノ利用）



1668

(61) - (60)



長期戦ニ関スル調査項目(抄)

一九三二

總力戰研究所

第一節 戦争ノ沿革並ビニ戦争長期化ノ原因

一 戦争ノ沿革

(一) 戦争ノ根本原因

(二) 副次的諸原因

二 戦争長期化ノ原因

第二節 戦前當嘉國ニ於ケル戦争ノ見透及之ニ基ク戦争準備

一 見透

二 戦争目的

三 戦争準備

(一) 戦争準備開始ノ時期

(二) 軍事

(三) 内政

(四) 外政

（四）經濟

內科學技術及其他學藝

第三節 戰爭ノ勃發

一、開戰決意

二、宣戰ニ關スル諸問題

三、戰爭目的、作戰目標、戦力、作戰方針、戰爭準備トノ關係

第四節 短期戰ナル見透ノ下ニ於ケル戰爭指導

一、主ナル會戰ノ狀況

二、戰爭指導ノ行詰及原因

三、戰爭指導方針ノ變換、ソノ長期戰化ノ經過

四、戰爭指導方針變換ニ伴フ障害トソノ克服

第五節 長期戰ノ指導

一、長期戰指導ノ概觀

（一）概 概

（二）戰爭目的及ソレガ戰爭期間中ニ變轉セル狀況

一 長期戦、規模

二 對敵方策トソ、遂行

一 概観

二 軸心施策及ソレガ戦争期間中變轉セル事實

三 諸施策、個別的檢討

三 對内方策トソ、遂行

一 概観

二 軍事

三 内政

四 財政及經濟

五 科學技術

六 世界観、問題

七 外政

八 與國間、諸問題

第六節 戦争、終結

- 一 戦争終結、動機及原因
- 二 戦争終結促進方策
- 三 終結条件
- 四 終結条件ニ關スル觀察
- 五 終結条件ト内争
- 六 勝敗、決定的要因
- 七 長期戦ヲ契機トセル當事國內、變動

以上

長期戰ニ關スル調査研究執筆者名簿

昭和一九三二 總力戰研究所

官職	氏名	擔當項目
東北帝大囑託	祇園寺 信彦	第一次ポエニ戰役（羅馬側）
京大助教	井上 智勇	第二、三次ポエニ戰役（羅馬側）
東京高校教授	秀村 欣二	ポエニ戰爭（カルタゴ側）
慶大講師	鈴木 泰平	ナポレオン戰爭（佛側）第一統領就任前
同志社大講師	豊田 堯	（、） 後
六高教授	大野 真弓	ナポレオン戰爭（英側）第一統領就任前
京大講師	前川 貞次郎	（、） 後
京大講師	中山 治一	第一次歐洲戰爭、第一節
姫路高校教授	江口 朴郎	第二、三節（英佛側）
東京第一師助教	小林 幸輔	第二、三節（獨側）
日大講師	矢田 俊隆	第四節、第五節、一、第五節二、獨側
獨協中學教諭	村瀬 興雄	第五節、一、獨側、三、獨側（及ナポレオン獨側）
海軍教授	藤居 善次郎	第五節、二、英側（及第五節、四、英側）
世界經濟研究會	西海 太郎	第五節、二、佛側（及第五節、四、佛側）
東亞學校教授	中村 祐吉	第五節、三、英側
陸軍教授	藤本 師夫	第五節、三、佛側
中央大學講師	古賀 英正	第五節中「財政經濟」、項
陸軍少佐	川上 清康	第五節中「科學技術」、項
陸軍教授	東 健一	第五節中「世界觀、問題」、項
京大助教	鈴木 高	第六、七、八節
東北帝大教授	山脇 重雄	文藝部長、役（日本側、ミ）
文部省圖書監修官	丸山 國雄	宋朝防衛戰爭（宋側、ミ）
民族研究所囑託	中島 敏	清朝建設戰爭（清側、ミ）
文部省囑託	松崎 壽和	「トルコ」建設戰爭（土側、ミ）
京大講師	野間 三郎	七年戰爭（普國側、ミ）
東北帝大囑託	村岡 甘	

1668

61 - (2)

極秘

昭和十九年七月二十四日

新内閣施政上ノ参考意見

總力戰研究所長

海軍少將 小川 貫 驥

戰局愈々熾烈ヲ極メ、眞ニ皇國隆替ノ岐路ニ立ツ決戰ノ秋、ココニ新内閣ノ發足ヲ見ル。其ノ任ヤ誠ニ重ク其ノ操ラントスル施策ノ内外ニ及ボス影響極メテ深シ。

今コソ一億國民ハ決然トシテ立チ、總力ヲ結集シテ米英ノ野望ヲ粉碎レ大東亞戰爭ヲ完遂シテ皇運扶翼ノ臣道ヲ全ウセザルベカラズ。即チ政府ハ既往ニ拘ルコトナク、皇國總力戰ノ本義ニ徹シタル施政ヲ強力ニ推進シ、戰局ノ一轉ヲ劃スベキナリ。

之ガ爲ニハ確固タル戰爭遂行方略ノ下政戰兩略ノ一致ニ間然スル所ナカラシムルハ素ヨリ、政治經濟其ノ他國政全般ニ亘リ劃期的ナル諸施策ヲ斷行スルト共ニ信ヲ廣ク天下ニ布キ、克ク人心ノ機微ニ徹シ、國民ヲシテ渾然融和、總力ヲ舉ゲテ決勝ノ一路ニ邁進セシムルノ要緊切ナルモノアリ。

以下掲グル諸項ハ此ノ際特ニ留意ス可キ施策ナリト信ズ。

## 一、國政運用ノ決戰化

現局下ノ國政運用ハ陸海軍ノ間然スル所ナキ連繫協調ヲ基礎的要件トシ確固タル政治態勢ヲ整へ強力ナル政治力ノ徹底滲透ヲ期スルノ要緊切ナルモノアルヲ以テ之ニ關シ格段ノ施策ヲ講ズルコト肝要ナリト認ム

尙左記事項ニ關シ留意ノ要アリト認ム

- (一) 機構改革ハ必要ノ最小限度ニ留メ現存機構ノ徹底的活用ヲ圖ル
- (二) 道州制ヲ確立シ中央官廳權限ノ地方移讓ヲ一層徹底ス
- (三) 必要ニ應ジ全權委任法ノ制定ヲ考慮ス

## 二、國民總力ノ完全ナル結集發揮

(一) 翼贊、翼政、翼壯等既存國民組織的團體ヲ打ツテ一九トスル清新簡素ナル國民組織ノ中核體ヲ結成シ從來ノ行掛リヲ斷乎一掃シテ國民總力ノ結集發揮ヲ圖ル

(二) 國民組織下部機構ヲ強化シ行政事務ノ一部移讓ヲ斷行ス



三 國土防衛ノ急速強化

(一) 青少年學徒ノ純真熱烈ナル意氣ヲ國民總力發揮ノ推進力タラシム

(二) 各般ニ亘ル真相ヲ可及的ニ國民ニ知ラシメ以テ政府諸施策ニ對シ積極的ニ協力スルノ氣運ヲ醸成ス

(三) 空襲對策ヲ格段ニ強化ス

(1) 民防空ヲ即時一元的ニ整備強化ス

(2) 疎開ヲ更ニ一層急速且徹底的ニ斷行（例ヘバ東京ノ人口三分ノ一強制疎開）スルト共ニ受入體制（住居及食糧ノ確保）ヲ急據整備ス

(4) 防空施設器材ヲ急速ニ増強ス

(5) 國民防衛對策ヲ樹立ス

(1) 重要工場、鑛山等ニ於ケル勞務者ノ民兵組織ヲ確立ス

(2) 重要地域（例ヘバ敵襲ノ虞アル島嶼海岸等）ニ於ケル住民ノ民兵組織ヲ確立ス

#### 四 生産力ノ飛躍的増強

- (一) 重要企業ヲ徵用シ以テ企業ノ國家性ヲ明確ナラシム
- (二) 資材等ノ徹底的動員及之ガ機動的配給ヲ確保スル爲重要資材ノ國家調辨ヲ行フ
- (三) 操業ノ中斷ヲ顧慮スルコトナク現存原料ヲ以テ全力操業ヲ敢行セシム

#### 五 綜合的食糧需給方策ノ確立並ニ之ガ強力ナル遂行

- 尙左ノ事項ニ付テハ特ニ留意ヲ要スルモノト認ム
- (一) 戰時食生活ノ研究ヲ促進シ食糧政策ノ基礎確立ニ資ス
- (二) 戰時食生活ニ對スル啓發指導ヲ強化ス
- (三) 食糧ノ配給統制ヲ全面的ニ強化ス
- (四) 食糧需給ニ於ケル戰力部門ト國民生活部門トノ調整ヲ圖ル

#### 六 輸送力ノ劃期的強化

- (一) 海上輸送ノ陸運轉換ヲ一層強化シ併セテ南方物資ノ陸送計畫ヲ樹立

遂行ス

一 船舶増耗防止對策ノ劃期的向上ヲ圖ル

二 作戰關係ヲ除キA B C船ノ一元の運営ヲ確立ス

三 小運送組織ニ國家的乃至公益的性格ヲ附與シ以テ之ガ抜本の改革ヲ

圖ル

七 勞務動員ノ徹底及調整

一 勞務者ノ適正配置並ニ勤勞管理ヲ徹底ス

二 軍動員ト産業勞務トノ調整ヲ圖ル

三 女子徵用ヲ斷行ス

四 動員學徒及徵用工ノ受入體制ヲ完備ス

五 動員學徒ニ對スル勞學一如精神ニ據ル指導ヲ徹底ス

八 科學者及技術者ノ重點的配置

一 科學者及技術者ヲ研究、設計企畫、検査等ノ部門ニ對シ重點的ニ配

置シ其ノ他ノ諸部門ニ對シテハ極力事務系統ノ者ヲ以テ充當ス

科学技術ノ劃期的振興ヲ圖ル爲特ニ科学技術ノ指導ニ練達セル者ヲ  
拔擢重用ス

理科系學徒ヲ其ノ專攻ニ應ジ最モ有效ニ動員配置ス

九 國民生活決戰化ノ徹底ヲニ明朗闊達ナル氣分ノ醸成

一 戰時國民生活方式ヲ設定ス

二 戰時國民道德水準ノ向上ヲ期ス

三 國民ノ創意工夫ヲ啓發シ以テ戰時國民生活ノ合理化ヲ圖ル

四 低額定收入者ノ生活安定ヲ期ス

五 戰時國民生活訓ヲ制定シ以テ戰時下ニ於ケル國民活動ノ具體的規準  
ヲ示シム

以上

一、總 旨

熟々惟ミルニ古來政治の大統一ヲ實現セントシ若クハ實現シタル爲  
政者ノ實施セル文教施策ノ礎石ハ

〔一〕新曆法ノ施行

〔二〕度量衡ノ統一

〔三〕新法制（例ヘバ民族法）ノ確立

〔四〕公用語ノ普及等ニアルヲ常則トス

ソノ企圖スル所ハ固ヨリ先ヅ統治上ノ便利ヲ得ントスルニアルモ、  
他而此等ガ直接間接ニ有スル至大精神的意義ヲ顧慮セル結果ナルコトハ  
疑ヲ容レザル所ナリ

就中新曆法ノ施行ハソノ實施上ニ於ケル障害比較的輕少ナルヲ以  
特ニ有效ナル施策ナリト思惟セラル（註）

今ヤ大東亞共榮圈ヲ建設セントスルニ當リ我國ノ採ルベキ大東亞文  
教施策ノ基幹ハ歐米的文化圈氣ノ拂拭、大東亞道義文化ノ建設ニ

アリ。仍テ現在大東亞ニ於イテ支配的地位ヲ占メツツアル歐米の  
基督教のニシテ東洋的ナラザル「グレゴリウス」曆ノ廢止、大東亞

曆ノ制定施行ハ大東亞文教施策上先ヅ着眼ス可キ要目ナリト思惟ス  
「註」我國ニ於イテ古クハ聖德太子初メテ曆（宋曆、恐ラクハ元嘉

曆）ヲ天下ニ弘メ給ヒ、近クハ明治天皇太陰曆ヲ廢シ太陽曆ヲ頒  
行シ給ヘリ。支那歷朝ハソノ興ルヤ必ズ新曆法ヲ確立施行スルヲ

常トシ、著名ナルモノノミニテモソノ數實ニ四十余种ニ上ル  
例ヲ歐洲ニ求ムルニ昔時「ユリウス・ケーザル」羅馬帝國ノ基礎

ヲ築クニ當リテ「ユリウス」曆ヲ制定シ、「マホメット」回教曆  
ヲ修メ、佛蘭西革命政府所謂「革命曆」ヲ施行セルガ如キハソノ

顯著ナル例ナリトス  
ニ現行太陽曆（「グレゴリウス」曆）ノ長短  
現行太陽曆ハ明治五年初メテ施行セラレ以テ今日ニ及ブ。ソノ長所

トスル所ハ改曆ノ詔書中ニ  
我國通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ 度ニ合ス故

ニ二三年間必ズ閏月ヲ置カザルヲ得ス閏閏ノ前後時ニ季候ノ早晚  
アリ終ニ推歩ノ差ヲ生ズルニ至ル殊ニ中下段ニ掲グル所ノ如キハ

61 - (f)

率不妄誕無稽ニ屬シ人知ノ開達ヲ妨クルモノ少シトセス蓋シ太陽  
曆ハ太陽ノ緯度ニ從テ月ヲ立ツ日子多少ノ異アリト雖モ季候早晚  
ノ變ナク四歲毎ニ一日ノ閏ヲ置キ七千年後僅ニ一日ノ差ヲ生スル  
ニ過ギズ之ヲ太陰曆ニ比スレバ最モ精密ニシテソノ利便モ固ヨリ論  
ヲ俟タザルナリ

トアルガ如ク季節ニ早晚ナキ事ハ舊太陰曆ニ比シ著シキ長所ナリ。  
加之、一年ガ常ニ十二ヶ月ナルコトガ國家事務上利便多カリシ點、  
並ニ主要列強ガ殆ンド「グレゴリウス」曆ヲ採用シツツアル事情モ  
亦看過シ得ザル所ナリ。

此處ニ於イテ政府ハ英國ノ航海曆 *Nautical Almanac* ヲ譯シ、ソノ

下欄ニ太陰曆ヲ對照セル太陽曆ヲ作り以テ頒行セリ

太陽曆ガ太陰曆ニ比シ大ナル長所ヲ有スルハ論ヲ俟タザル所ナルモ  
政府ノ採用セル現行太陽曆即チ歐米直輸入ノ「グレゴリウス」曆ガ  
我國延イテハ東亞ノ實情ニ必ズシモ合ハザリシ點ハ是又看過シ得ザ  
ル點ナリトス。ソノ短所トスル點ヲ尋グルニ

〔一〕年始ガ早キニ過ギ農業其他ニ不便ノ點少シトセズ

〔二〕漁業従事者ハ潮汐ノ時刻ヲ知ル必要アル處、太陽曆ハ干満ヲ推算

スルニ便ナラズ

〔三〕二千年來太陰曆ニヨリテ養ハレ來リシ傳統的風俗習慣上ヨリ見テ

不都合ノ點極メテ多シ

「備考」先年太陽曆下欄ノ太陰曆ヲ除去スルコトニナリタルガ之ガ爲

農業及漁業従事者ハ少カラズ迷惑シツツアリ

### 三、大東亞曆（假稱）策定ノ方針

歐米直輸入ノ「グレゴリウス」曆ヲ廢シ大東亞ノ實情（註一）ニ適  
合セル大東亞公用曆（以下大東亞曆ト假稱ス）ヲ制定スルノ目的ヲ  
以テ左ノ如キ策定方針ヲ採ル

〔一〕大東亞曆ハ太陽曆ノ原理ニ立脚スルモノトス

〔二〕東洋古來ノ傳統ニ則リ立春ヲ以テ年始トス

〔三〕皇紀二六〇一年（昭和十六年）ノ立春ヲ以テ大東亞紀元（假稱）

元年元旦トス

〔四〕歐米直輸入ノ週制ヲ廢シ、東洋ノ傳統ニ基ク旬制ヲ施行ス（註二）

〔五〕月齡ノ表現方法ヲ平易ナラシム

右ノ如キ方針ヲ採ルコトニ依リ吾人ハ太陽曆ノ美點ヲ生カシ、而モ年始ヲ立春ニ現行曆ノ二月四、五日頃トスルコトニヨリ、舊制太陰曆ニ基ク風俗習慣ニモ略々適合スル新太陽曆ヲ策定シ得ベシ。尙日齡ニ關スル現行ノ學術的表現方法ヲ改メ、平易ナル表現ヲ採用スルコトニヨリ、農漁従事者ヲシテ近ヅキ易カラシム。

「註一」目下大東亞各地或ニ行ハレツツアル曆法ヲ概觀セバ次ノ如シ

#### 一 帝 國

「グレゴリウス」曆、但シ民間ニ於イテハ舊曆（太陰曆）未ダソノ跡ヲ絶タズ

#### 二 滿 洲 國

「グレゴリウス」曆、支那曆（太陰曆）並用

#### 三 華 北 國

「グレゴリウス」曆、支那曆（太陰曆）並用。但シ民間ニハ各種ノ土曆（太陰曆系統ノモノ）行ハレアルモノノ如シ

#### 四 南 方 諸 地 域

「グレゴリウス」曆一般ニ行ハレアルモ、民間ニハ支那曆、回教曆（純太陰曆）、各種ノ土曆（太陰曆系統ノモノ）行ハレツツアリ

「註二」週制ハ「バビロニア」乃至「ユダヤ」ニ起原ス。反之、古來東洋ニハ旬制アリ。漢時代ニハ五日ニ一日ヲ公休日トハセシ事實アリ、又唐時代ニハ旬休ノ制アリ。我國ニモ毎月一日及六ノ日ヲ休日トスル所謂六齋ノ制アリタリ

「備考」時刻法ノ問題ハ度量衡ト密接ナル關聯アルヲ以テ別途研究ニ讓ルモ一案ヲ左ニ示ス

一日 二〇時間、一時間 五〇分、一分 一〇〇秒、

四 大東亞曆（假稱）策定ノ要領

〔一〕一年ヲ十二ヶ月、一月ヲ三旬、一旬ヲ十日トシ、年始三日、年末  
二日（閏年ハ三日）ノ旬外日ヲ設ク

春 年始三日（旬外日）、一月、二月、三月、（各三旬）

夏 四月、五月、六月、（各三旬）

秋 七月、八月、九月、（各三旬）

冬 十月、十一月、十二月、（各三旬）年末二日（旬外日）

〔二〕置閏法ヲ次ノ如ク定ム

大東亞紀元年數（假稱）皇紀年數ヨリ二六〇〇ヲ減ジタルモノノ

ニシテ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス

但シ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノノ中、更ニ四ヲ以テ整除シ得ザル

年ハ平年トス

〔三〕現行太陽曆ト大東亞曆トヲ比較セバ概略次ノ如シ

五 大東亞曆ノ施行方式

〔一〕帝國ニアリテハ現行「グレゴリウス」曆ヲ廢シ、大東亞曆ヲ公式  
ニ採用ス

〔二〕滿洲國及中華民國ニアリテハ現行「グレゴリウス」曆ヲ廢セシメ  
大東亞曆ヲ公式ニ採用セシムルモ、當分支那曆ト並用セシメ、漸  
次大東亞曆一本立トナルガ如ク指導ス

〔三〕南方諸地域ニアリテハ大東亞曆ヲ公式ニ採用セシムルモ、當分「  
グレゴリウス」曆、回教曆、各種土曆ノ並用ヲ許容ス

以上



備考 大東亞曆ノ見本ニ関シテハ別紙参照

冬		秋			夏			春			冬		グレゴ リウス 曆
一 月	十二 月	十一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	
31	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	28 (29)	31	
冬		秋			夏			春				大東 亞 曆	
十二 月	十一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月	四 月	三 月	二 月	一 月		十二 月
師 走	霜 月	神 無 月	長 月	葉 月	文 月	水 無 月	皇 月	卯 月	彌 生	如 月	睦 月		師 走
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30		
	上 月 中 旬	十 月 初 旬	八 月 中 旬	七 月 下 旬	七 月 初 旬	五 月 中 旬	五 月 初 旬	四 月 初 旬	三 月 下 旬	二 月 中 旬	年 初 旬		
	冬 至	立 冬	秋 分	三 十 日	立 秋	夏 至	入 梅	立 夏	八 十 八 夜	春 分	立 春		

五月 昭和十九年

皇紀 二六〇四年  
大東亞紀元

月次	通日	芒種	月終	曆	曜
一日	一四		十五夜	六月廿一日	火
二日	一五		十六夜	六月廿二日	水
三日	一六		十七夜	六月廿三日	木
四日	一七		十八夜	六月廿四日	金
五日	一八	端午節旬	十九夜	六月廿五日	土
六日	一九	入梅	二十夜	六月廿六日	火
七日	二〇		廿一夜	六月廿七日	水
八日	二一		廿二夜	六月廿八日	木
九日	二二		廿三夜	六月廿九日	金
十日	二三		廿四夜	六月三十日	土
十一日	二四		廿五夜	七月一日	火
十二日	二五		廿六夜	七月二日	水
十三日	二六		廿七夜	七月三日	木
十四日	二七		廿八夜	七月四日	金
十五日	二八	夏至	廿九夜	七月五日	土
十六日	二九		三十夜	七月六日	火
十七日	三〇		一 夜	七月七日	水
十八日	三一		二 夜	七月八日	木
十九日	三二		三 夜	七月九日	金
二十日	三三		四 夜	七月十日	土
二十一日	三四		五 夜	七月十一日	火
二十二日	三五		六 夜	七月十二日	水
二十三日	三六		七 夜	七月十三日	木
二十四日	三七		八 夜	七月十四日	金
二十五日	三八		九 夜	七月十五日	土
二十六日	三九	半夏生	十 夜	七月十六日	火
二十七日	四〇		十一夜	七月十七日	水
二十八日	四一		十二夜	七月十八日	木
二十九日	四二		十三夜	七月十九日	金
三十日	四三		十四夜	七月二十日	土
一日	四四	小暑	十五夜	七月廿一日	火
二日	四五		十六夜	七月廿二日	水
三日	四六		十七夜	七月廿三日	木
四日	四七		十八夜	七月廿四日	金
五日	四八		十九夜	七月廿五日	土

備考 便宜上日赤緯、日出中没時刻、月出中没時刻、干満  
時刻并ハ省略セリ

六月

1668

(61) - (9)

極秘

昭和十九年九月

企業ノ決戰體制ニ關スル研究

四十部ノ中第 40 號

總力戰研究所

本作業ハ緊急時局下ニ於ケル戦時非常方策ノ一トシ  
テ研究セルモノニシテ皇國企業ノ理想體制ニ關スル  
研究ヲ意圖セルモノニハ非ズ

## 第一 趣 旨

苛烈ナル戦局下生産ヲ飛躍的ニ増強スルハ國家最大ノ要請ナルモ現狀ハ必ズシモ之ニ副ハザルモノ尠カラズ其ノ原因固ヨリ一ニシテ足ラズ之ガ對策又多岐ニ亘ルト雖モ企業運営ノ面ヨリ見テ急速且強力ニ實施スベキ事項左ノ如シ

- 一、戦局ニ對應スル生産ノ徹底的機動化
- 二、重點工場ヘノ生産集中並ニ遊休未完成設備ノ整理斷行
- 三、勞務、資材、設備ノ跛行狀態ノ是正
- 四、計畫生産ノ徹底
- 五、企業系列ノ整備
- 六、工場ノ適限規模化ニ依ル生産ノ増強
- 七、技術交流ノ徹底
- 八、技術者技能者ノ重點配置ノ徹底
- 九、重點的研究ノ増強

七 生産防空ノ徹底

八 空襲被害ニ對應スル生産ノ轉移

九 志動員學徒徵用工等ノ生産意欲ノ昂揚

然ルニ現状ニ於テハ多數企業分立シ各々獨自ノ立場ニ於テ運営ヲ爲ス  
ノミナラズ其ノ相互間ニハ牢固タル障壁アリテ連絡融通ニ缺クル處大  
ナルモノアリ故ニ前記諸施策ノ實現極メテ困難ナリト謂フベシ  
而シテ之ガ打開ノ方策トシテ考慮セラルルモノ種々アルベキモ前記諸  
施策ノ遂行ヲ同時ニ可能ナラシムルト共ニ短期圓滑且生産能率ニ悪影  
響ヲ及ボスコトナク實施ヲ期スル見地ヨリ見テ企業ノ國家使用ヲ最モ  
機宜ニ適シタルモノト謂フヲ得ベシ

第三 要 領

一 範 圍

總動員業務ニ屬スル事業ニシテ國家總動員法第三條第一號ニ屬ス  
ルモノトス但シ實施ニ當リテハ緊急ニシテ要度大ナルモノヨリ漸

次擴大ス

ニ方法

(一)工場事業場ニ付テハ之ヲ國家使用スルモ必要已ムヲ得ザルモノ  
ニ付テハ收用ス

幹部、社員及工員ハ之ヲ徵用シ幹部及社員ハ官吏ニ準ジタル國  
家職員トス

右ノ使用徵用等ニ當リテハ企業ノ有機的性格ヲ尊重シ從來存シ  
タル人的物的結合關係ヲ害ハザルガ如ク留意ス

(二)工場事業場ニシテ國家使用スルモノニ對シテハ適正ナル使用料  
ヲ支拂フ

(三)使用權設定當時存在スル資材及原料ハ國家ニ於テ買收ス

(四)従業員ノ給與手當等ハ一應現支給額ヲ認メ不合理不均衡ナルモノ  
ノニ付テハ漸次是正ス給與手當等ノ報奨ニ依ル刺戟ハ技術的ニ  
考慮ス

### 三、運 營

(一) 中央及地方（所要ニヨリ）ニ強力ナル管轄機關ヲ設ケ具體的計  
畫ノ樹立及實施ニ當ラシムルト共ニ當分ノ間企業ノ適正ナル運  
營ヲ指導監督スル爲監督官ヲ工場事業場ニ派遣ス

(二) 各部門毎ニ企業ノ圓滑ナル運營ヲ期スル爲機動性ニ富ム特別會  
計ヲ設定ス

### 第三、右施策遂行上留意スベキ事項

一、右施策遂行ニヨリ企業幹部及子飼社員工員等ハ従前ノ特殊地位喪  
失ニ對シ不滿ヲ藏シ又將來ニ對スル不安ヲ抱ケノ惧アルベキヲ以  
テ之ニ基ク生産能率低調化ノ可能性ナシトセズ之ニ對シテハ適切  
ナル指導並ニ措置ヲ必要トス

二、右決戰新體制ニ伴フ企業管轄機關ノ整備特別會計ノ設置其ノ他新  
體制ヘノ移行ニ必要ナル諸準備ノ完了ニハ相當煩瑣ナル手續及期  
間ヲ必要トスベキモ極力短期間ニ之ガ整備ヲ完了スル如ク格段ノ  
努力ヲ要ス

以 上